

第 123 回 計測技術委員会議事録

日 時 平成 21 年 7 月 24 日 (金) 14 : 30 ~ 16 : 30

場 所 日本交通協会 第 2 会議室

出席者 委 員 長 田辺 (電中研)

委 員 伊澤 (菊水電子)、岩佐 (産総研)、小野 (日本大)、木本 (佐賀大)、
小平 (日電検)、佐山 (防衛大)、長井 (電通大)、仲嶋 (三菱電機)

幹 事 作本 (日電検)、大谷 (アンリツ)

幹事補佐 白井 (日電検)

資 料

123-1 第 80 回、81 回基礎・材料・共通部門研究調査運営委員会

123-2 平成 22 年度 計測技術委員会活動計画一次案

123-3 平成 22 年度 計測研究会開催予定一次案

123-4 平成 21 年度 計測技術委員会活動状況

123-5 平成 21 年度 計測研究会開催状況

123-5-1 計測研究会プログラム (9 月開催分)

123-6 平成 21 年度研究会活動補助金計算書

123-7 SPring 8 見学スケジュール

123-8 研究会電子投稿システムの要点について

123-8-1 研究会論文投稿システムフローチャート

123-8-2 研究会電子投稿システム幹事用マニュアル

123-9 計測技術委員会における活動の紹介

123-10 日本における国家計量標準とその供給体制：直流電気標準の供給

議 事

1. 議事録の確認

- ・異議なく承認された。

2. 運営委員会報告

白井幹事補佐より、5 月 12 日および 7 月 21 日に開催された運営委員会の報告があった。

イ. 他学会との研究会共催開催について

- ・電子情報通信学会との研究会共催について、平成 21 年度は従来どおり合同 (共催) 開催とするが、平成 22 年度から併催又は連催とする。

ロ. 公開シンポジウム

- ・平成 22 年 3 月下旬に、電気学会主催で東京電力資料館において開催を予定する。対象は小中高生で、資料館の見学を 1 時間程度行った後、シンポジウムを開催する。

ハ. 新しい研究会投稿システム

- ・新しい研究会投稿システムの移行にともない、論文の最低ページ数 (現行 4 ページ) の扱いは技術委員会に一任となる。

ニ. マグネティックス技術委員会の研究奨励賞

- ・他の技術委員会でも研究奨励賞のような表彰制度を検討してほしい。

この件に関し、奨励賞の位置付けが必要で、受賞した事実を公表する必要があるのではないかとの意見が出された。今後、幹事補佐が計測技術委員会奨励賞の規程のたたき台を作成する。

3. 平成 22 年度活動計画並びに計測研究会開催予定一次案

作本幹事より資料 123-2 および 123-3 に基づき、平成 22 年度活動計画並びに計測研究会開催予定一次案について説明があった。

- ・新設の調査専門委員会は 1 件を予定する。
- ・A 部門大会は琉球大学で、また、平成 23 年全国大会は 3 月 16 日～18 日に大阪大学で開催される。
- ・「光応用計測」と「温度計測」の研究会は“及び一般”を付ける。また、「応用磁気計測及び一般」の研究会のプログラム締切は平成 22 年 12 月に修正する。
- ・新しい研究会論文投稿システムの運用開始により、募集時期が早まるので注意が必要である。

4. 平成 21 年度活動状況

作本幹事より資料 123-4 および 123-5 に基づき、平成 21 年度活動状況について報告があった。

- ・平成 21 年の計測研究会発表件数は、9 月の東京支部連合研究会を含め 46 件となっている。
- ・7 月に予定していた「遠隔計測及び一般」の研究会は、インフルエンザを考慮して中止となった。
- ・10 月の「温度計測及び一般」の研究会は 12 月開催に変更する。また、2 月の「光応用計測及び一般」の研究会は北海道大学で開催するが、終日開催とするかは担当委員で検討する。

5. 研究会活動補助金

作本幹事より資料 123-6 に基づき、活動補助金について報告があった。

- ・活動補助金は研究会予稿集売り上げに対し 3%が交付される。平成 20 年分の予約数 87、発表論文数 82 に対し、3 万 2 千円が交付された。

6. 計測技術委員会見学会

大谷幹事より資料 123-7 に基づき、見学会について報告があった。

- ・見学会は 10 月 2 日に SPring 8 で行うが、入場方法などについて 9 月 24 日に幹事から連絡する。
- ・見学内容は、生体（たんぱく質）関係、地球物理、材料分析について SPring 8 に申し入れしている。

7. 研究会電子投稿システム

白井幹事補佐より資料 123-8 に基づき、新しい投稿システムについて報告があった。

- ・新しいシステムでの計測研究会の運用は、平成 22 年 2 月の「光応用計測及び一般」からとなる。
- ・論文ページ数について下限は設けないことになっているが、計測研究会としては現行のとおり 4 ページ以上とする。

8. A 部門大会における活動紹介

田辺委員長より資料 123-9 に基づき、A 部門大会における各技術委員会の活動紹介について報告があった。

- ・今年の活動紹介は、特集論文に掲載された佐山委員の「S バンドレーダによる港湾部近辺におけるクラッタの抑圧」と優秀論文発表賞を受賞した今池氏の「光・電気積層型センサによる材料識別」とする。今池氏には幹事補佐から依頼する。
- ・平成 22 年 2 月号に各技術委員会の報告が掲載される。原稿の締切は 9 月 30 日である。

9. 「でんきの礎」の候補

田辺委員長より、でんきの礎について報告があった。

- ・電気学会から「でんきの礎」についての候補依頼が届いている。締切は7月30日となっているが、A部門として「光ファイバー通信と製造技術」が候補に上がっている。
- ・計測技術委員会から、アンリツで開発された1.55 μm の半導体レーザを関連する技術の一項目として推薦してはどうか。

10. IEEE アワード登録

大谷幹事より、アワードの登録依頼が届いているとの報告があった。また、125周年のシンポジウムが10月23日に大手町で開催される。

11. 技術談話

岩佐委員より、日本における国家計量標準とその供給体制に関する紹介があった。

- ・ユーザによる調整機能が付いたデジタルマルチメータが販売されているが、最近では表示桁数の少ないものについても調整機能が付加されている。
- ・ユーザが自己調整を行う場合は、調整するデジタルマルチメータよりも良い精度のキャリブレーションなどが必要になる。一方で、ユーザがトレーサビリティが取れた標準器を保有するか、又は、調整・校正を行う機関があるかどうかの問題もある。
- ・今後、計測技術委員会の場で議論し、意見をいただきたい。

次回予定

日 時 平成21年10月9日(金)

場 所 未定